

一茶ゆかりの里四季の俳句会 (令和七年四月～六月分)

選者 高山俳壇 高野 悠子 先生

特選天 夏雲をいで来し機影無音なり

愛知県 武山 明彦

飛行機雲を見事に捉えた納得する句柄が素晴らしい。

特選地 草むらの深きに灯す初蛍

新潟県 金子 加津久

初蛍が恋蛍となり、草むらの深きを灯しつつ
け、読む人のときめきを覚える句。

特選人 蚊喰鳥百間堀を根城とし

三重県 西尾 泰一

この鳥は昼は暗所にをり、日暮から活動する
伊勢の旅での情景でしょうか。

入選 蒼天に鳶啼く野辺や花林檎

長野市 近藤 柊雨

入選 菜の花や村のピザ屋の昼下がり

石川県 蔵 豊政

入選 掘り出した蚯蚓へかける鍬の土

群馬県 安齊 和子

入選 蛙塗りて一村なべて水鏡

群馬県 仙田 美名代

入選 リリースす山女の斑くねり消ゆ

千葉県 土田 宏美

入選 入館を誘ふ満天星花明り

須坂市 山岸 敏男

入選 夏木立ちこくりこくりのベンチかな

中野市 久保 広二